

(第 7 期) 第 3 回市川市環境市民会議について

1. 開催日時 令和 2 年 2 月 6 日 (木) 15 時～17 時 30 分
2. 開催場所 市川南仮設庁舎 1-1、1-2 会議室
3. 出席者 公募市民 10 名、事業者 3 名
4. 会議内容

- (1) 環境基本計画の体系図の修正について
- (2) 自然環境（生物多様性）に関するグループワーク

「生物多様性を知り、行動するためには」をテーマに設定し、生物多様性の保全再生を推進するためには市民・事業者・市がどのような取り組みを進めていけば良いか、4 グループに分かれてアイデアを出した。各グループから発表のあった意見は下記のとおり。

グループ	意見内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や漁業、キャンプ等を小さい頃から体験し、自然を好きになる。 ・事業所内（敷地内）を緑化する。 ・公共施設等の緑化を推進する。 ・緑化を推進するだけでなく、今ある緑地を生物多様性に配慮して保全する。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・重点地域を選び、その中で生物多様性について学べるようにする。予算、人、時間は限られているため、集中的に。 ・家族で市川の自然を学べるように、環境教育として夏休み等にセミナーを開催する。 ・マンションの緑化を推進する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、事業者、市で分けて考えるのではなく、皆が繋がっているという点で教育が大事ではないか。 ・子ども向けの講座や、地域にどのような生き物がいるのかを調べるコンテストを開催するのが良いと思う。⇒市は全てを準備するのではなく、活動している方々を繋げていく。 ・市民向けのキャンペーンと合わせて、NPO 等の事業者と市の協働の取り組みも進めていくべき。 ・調節池保全のための協議会を作る。（皆を参加者にする。）
D	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭で雨水利用を進める。 ・親が子に昔の話を語り、生物と触れ合った体験を共有する。 ・廃棄物を削減する。 ・グリーンインフラの手法を取り入れ、昆虫が息づく仕組みを作る。 ・ビオトープを造る。 ・耕作放棄地を市民農園のようなコミュニティが支える農園に転用する。 ・市民活動へ助成を行う。 ・シンボリックな生物を引き立たせて PR する。（レッサーパンダ等） ・調節池での環境教育施設機能を強化する。 ・水の日にはプラスチックごみクリーンアップ作戦を展開する。

(3) 地球環境（温暖化問題）に関するグループワーク

「地球温暖化対策を加速させるには」をテーマに設定し、1人1人の環境意識をさらに高めて地球温暖化を自分ごとと捉え、温室効果ガスを削減するには市民・事業者・市のそれぞれがどのような取り組みを進めていけば良いか、4グループに分かれてアイデアを出した。各グループから発表のあった意見は下記のとおり。

グループ	意見内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方のスタートを「温暖化対策を加速」するのではなく、温暖化は地球の長い歴史に任せ、「温暖化を加速するようなことをやめる」こととした。 ・エネルギー使用を減らす。（早寝早起き等の自然に逆らわない生活を送る。） ・働き方を変える。（フレックスタイムの導入による渋滞の防止、自宅勤務による遠距離通勤の削減） ・地産地消を心がけ、旬の物を食べる。 ・二酸化炭素の吸収源である海や森を守る。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット通販の宅配物をコンビニや郵便局止まりにする。（燃費が向上しても走行距離が増えてしまっは意味がないため。） ・過剰包装や宅配の個別包装の材料を見直す。（リサイクルにかかるエネルギーの削減） ・「温暖化」という言葉が柔らかな表現のため、もっと強い表現にする。 ・時差出勤（登校）により、列車の本数の削減を図る。 ・古い住宅を断熱型住宅に建て替えるよう、補助金を交付する。 ・住宅の断熱化を進める。 ・家庭で温暖化対策（省エネ）のチェック表を導入する。 ・リサイクルを推進する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルを変える。（電気自動車を推進する、ごみを減らす、家庭内の室温を下げる、LED照明に市から補助金を出す） ・再エネの推進（再エネ切り替えの普及啓発、事業者から社会貢献活動として費用を出してもらう。） ・建物の断熱化（住居や事業所、断熱対策への助成） ・ミニバスの本数を増やして利用しやすくし、自家用車を減らす。 ・街中の緑化に努める。 ・テレワークを推進する。 ・SNSを使用して「地球が熱くなっている」といった発信をしていく。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー効率を上げる。（太陽光パネルや省エネ住宅の利用、省エネ家電製品への買い替え、LED 使用の徹底、コンパクトシティの実現） ・サービスレベルの限界活用（宅配再配達料金の設定）

○ 自然環境（生物多様性）に関するグループワーク

グループ	市民	事業者	市
A	<ul style="list-style-type: none"> 動物を飼って世話をする習慣 世代をまたがって参加 農業体験、漁業体験 キャンプ体験 日本各地の名産を味わい、その土地の食を知る 小さい頃からの体験（芋ほり、臨海学校 etc.） 身近にどんな生物がいるか気にしてみる 自然が豊かな場所に（山、川、海など）に行った時にありがたみを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内（敷地内）緑化 環境保全活動への取組み（ボランティア、協賛） 自然保護活動に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> 食料作り、農業体験、家族で参加 ピクニックを催す 公共施設等の緑化の推進 生物多様性のメリットセミナー、おいしい水の作り方セミナー、生物多様性の勉強会開催 防災、健康、農業など関連する部署と連携して生物多様性についてPRする つきつめると教育の話
		<ul style="list-style-type: none"> 今ある緑地の保全（多様性に配慮） 一定規模の開発行為の緑化 	
B	<ul style="list-style-type: none"> 市川市の中で重点地域を選ぶ 江戸川放水路を重点地域にする 真間川、大柏川水系を重点地域にする 近隣への自家用車使用を控える 自然環境の中に存在するごみを除去する 外来種の対応→（行動） 環境セミナーの開催→オーストラリアの火災 	<ul style="list-style-type: none"> マンションの緑地を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 自然からの恵みに感謝するイベント 学校行事で子供+親（家族）で市川にある自然を知る 生態系に関する環境教育 夏休みの宿題：小学校4年生～5年生での課題テーマ 具体的な行動指針を示す
C	<ul style="list-style-type: none"> まず小学生に理解してもらう為に（教育の一環） 地域（市、県、国）にどんな生き物がいるか調べるコンテスト 市川特有生物保護キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> コストとの両立を図る為にどうするか？（各社毎違う） 生物関係の面白い方のセミナー（サカナくん、五箇先生、カマキリ先生） いないとどうなるの？講座の先生 	<ul style="list-style-type: none"> 自然に親しむ取組を増やす（市民農園を増やす）
		<ul style="list-style-type: none"> 遊水地の保全のための協議会 田んぼの復活 ナシ畑の保全 NPOの方との協働取組（数件でも） 教育の一環として多様性の大切さを組入れてもらう 生物多様性を感じる話を市民にする（魚が採れなくなったなど） 	
	<ul style="list-style-type: none"> 水と緑の回廊を作る為の費用をだしてもらう 〇〇がないと私たちはどうなる？講座、教室 生垣の補助 		
D	<ul style="list-style-type: none"> 家の環境対策：ゴミ処理、ソーラー、雨水 etc. 「あま水」（雨水）利用を各家庭で取り組む 親が子に昔語り。「私が小さい頃は田んぼにザリガニがいて」とか。自分が生物と触れ合った体験を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の削減 ゴミ処理再利用などの技術革新 事業者のPRになるようなカタチでピオトープをつくる。小規模（水槽サイズでも）なものを公園とかショッピングセンター、駅（?!）に置いてもいい グリーンインフラの手法「バイオスカイ」を通りに整備する 日本ミツバチの養育と蜂の加工 技術革新 エネルギー効率 蓄電池の再利用 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティが支える農園への放棄地の転用 市民活動への助成 自然環境の保全、ルールの作成 都市型水害を考え雨庭、雨水タンク設置を拡げる（推奨する） 市川の各駅に「アースウォール」（水耕栽培の壁を増やす） 生物多様性は全ての種が重要だが、それらを代表したシンボリックなキャラクター種を引き立たせてPRする。（Ex：ゲンジボタルの復活ストーリー、レッサーパンダ〇〇） 国分、大柏川調整池でのレクリエーションと環境教育施設機能を強化する 主要な北と南をつなぐ道路に昆虫が舞う空間（雨庭）をつくりだす 小規模のイベントを重ねるだけでなく全市的な大イベントを1年に1回行って周知を図る。環境フェアにくっつけてもいい プラごみ収集に特化したクリーンアップの市民活動 廃棄物処理の再利用 処理熱の利用：温水プール、ごみ処理場 江戸川（水の日）プラごみクリーンアップ作戦の展開

○ 地球環境(温暖化問題)に関するグループワーク

グループ	市民	事業者	市
A	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化対策でできることをリストアップし自宅に貼る ・エネルギー使用を減らす 電力、エアコン、早寝早起き フレックスタイム←渋滞防止、働き方改革 自宅労働を増やす ・地球の長い歴史で見た気候変化と温暖化について知る ・省エネ型の生活にする (早寝早起き、エネルギーを使う(風力・地熱・水力)) ・地産地消、旬の物を食べる ・地球にとっての最大の害虫は、今のままでは人間であることを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機の廃止 ・省エネ機器の開発販売 ・省エネ製品のメリットをPRする 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生、高校生への環境教育を充実させる ・見学会と講義 千葉商大一ソーラー発電 ・海と森を守る
	<p>・温暖化は地球に(46億年の歴史)任す ⇒ 人間は解決出来ないところまで来た ⇒ 人間らしくなる →温暖化を加速する事をしない</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な効果と合わせて温暖化対策を考える ・カーシェア等の利用 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・今の産業経済のあり方を見直せば民生家庭、民生業務、運輸、廃棄物等全て削減できる ・働き方改革
B	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン電力の購入 ・住宅の断熱化 ・家庭の温暖化チェック表 室温、ごみ処理など ・リサイクルをもっと推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット通販の宅配をコンビニ郵便局止まりにする。 ・過剰包装・宅配の個別包装の材料見直し ・事業者(大手)は太陽光等再エネを積極的導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化 →イメージを強くする表現 ・雨水、井戸の利用 ・事業者(中小)への補助、太陽光発電 ・家電の買替えキャンペーン(抽選で何か当たる)
	<ul style="list-style-type: none"> ・植物グリーンカーテンの推進 ・時差出社(出校) ・ガソリン軽油の効率的使用(数字公表) 		
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルを変える為の学習会 ・従来の自動車からハイブリットの電気自動車 ・電気自動車の推進 ・ごみを減らす(ごみ分も価格にONされている) ・プラスチック容器を使用しない ・石油系の暖房使用しない ・家庭内の室温を下げる(20℃以下) ・LED照明に市から補助金を出す ・家庭でのCO₂削減策を実施(エアコン1℃下げるとCO₂がどの位減るのか) ・住居の断熱 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークの推進(移動なし) ・SNSを使ってダメPRをする ・社会貢献活動で再エネ推進に費用を出してもらう ・再エネ切替! ・再エネを進める ・事業所等の断熱! 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニバスをもっと利用し易く(本数増やす) ・街中を緑化に努める ・再エネ切替の普及啓発 ・太陽光の推進 ・断熱対策への助成
	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂削減のためにできることの情報提供 		
D	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルを利用してみる(売電、外構) ・ソーラー雨水利用などの省エネ住宅の利用 ・カーシェアを拡げる ・ゴミを最小化するため、各家庭で目標をもつ ・クリーンセンターの電力を減らす 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー効率 技術革新 エアコン・TV・住宅 ・節水トイレ、食洗器 ・住宅メーカーなどがエコハウスのモデルルームをつくる。 ・CO₂排出を削減するための省エネ車の改良普及 ・脱CO₂への技術革新 省エネ、自然エネルギーの利用 ・バイオプラの開発とバイオガスプラントの導入 ・宅配再配再配達料金を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての公共施設の屋根に太陽光パネルをつける ・LED使用の徹底 ・エネルギー効率 助成金 断熱、ペアガラス ・省エネ助成金 ・モビリティを高める自転車道、歩道を増やす ・まち乗りにトラム、買い物マルシェ車を通してみる ・個人車利用の削減の為の施策、公共交通バスなど・・・ ・コンパクトシティ ・CUCの太陽光エネルギーを市の公園で利用する方策を立てる ・電力を自然エネルギー生産地から買って供給する ・RE100(自然エネルギー100%)を達成した千葉商科大学を見習って「RE100都市いちかわ」を宣言しちゃおう!
	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー効率のUP 生産・消費・蓄電池 車→7&11→家庭用 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー効率を上げる(省エネ) ・サービスレベルの限界活用 		